



民主 苦小牧号外
2026年
9.20
No.1157

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!



沖縄の米軍基地、恒久化!!

13日の沖縄県知事選挙では、私たちが応援していた玉木デニーさんの当選を果たすことはできませんでした。新しく沖縄県知事になったのは、高市政権が支援した古謝玄太氏です。当然、辺野古新基地建設容認派です。

辺野古基地は、2019年に県民投票をおこない、7割を超える県民が「反対」の意思を表明しました。この結果を受け、辺野古基地建設は中止するはずでしたが、それを「良し」としない安倍政権は“代執行”で工事を強行しました。まさに県民無視で許されない行為です。

デニーさんは、その後も一貫して基地反対と県民の命と暮らしを守るためにたたかってきた知事です。今後、沖縄がどうなるのか、私は心配です。

辺野古基地建設は、1995年の米軍兵による少女暴行事件での県民の怒りを鎮めるために、普天間基地の代替として

政府が言い出したものです。しかし、辺野古基地はもちろん、普天間基地も嘉手納基地も沖縄から出て行ってほしいというのが、多くの県民の願いです。

さらに政府は、「沖縄の負担軽減のためには、辺野古は唯一の解決策」と言い続けてきました。しかし、「辺野古基地の滑走路は短いから、他の長い滑走路を用意しないと、普天間から出て行かないぞ」という一方的な要求がアメリカから出され、1996年に政府も合意していたことが、最近になって明らかになりました。まさにアメリカいいなり。「辺野古は唯一の解決策」と言ってきたことは、30年間もウソだったことになります。

「長い滑走路」とはどこでしょうか。那覇空港しかありません。しかも、有事（戦争）での使用が前提です。さらに、沖縄にいる海兵隊のうち4000人をグアムに移転させるための費用3700億円（移転費用の98%）を政府はアメリカに支払いました。これも沖縄の負担軽減のためですが、アメリカはグアム移転の約束を守っていません。そして政府は、抗議すらしていません。「沖縄の負担軽減」どころか、恒久的にアメリカの好き勝手に使わせるということではないでしょうか。古謝玄太氏は、この危険な動きを、さらに加速させると思います。

ニュースでは、「沖縄県民は、基地問題の関心が薄れている」と報じていました。私は、正しい情報を沖縄県民に知られないようにしていることが問題だと思います。